



市川陽子 議員
公明党

予算編成について

問 土木費の執行率が低い理由について伺います。

答 都市建設部長 多額の工事費を有する津波避難道路整備事業の工事年度からの予算の繰り越しを行い、事業費が膨らんだためです。下半期において、業務マネジメントの徹底と早期事業の実施に努めます。

問 毎年の決算で、全体的に不用品が減少しないが、増加させない取り組みについて伺います。

答 総務部長 事業効果の上がつたものや、入札等で発生した執行残額は、3月補正で減額するなどの措置を行います。改めて再度徹底をします。

認知症対策について

問 3年前に、国は認知症施策推

進の総合戦略(新オレンジプラン)を策定しました。市では、認知症初期集中支援チームが設置されましたが、取り組み状況を伺います。

答 保健福祉部長 地域包括支援センターが入手した情報をもとに、認知症が疑われる方や認知症の方で、医療及び介護サービスを受けていない方を対象に、早期診断、早期対応に向けた支援を行っています。支援件数は、平成28・29年度がそれぞれ3件、平成30年度は、現在まで2件です。

問 平成28年度2月の介護保険の認定者で、2603人のうち62%、1610人が認知機能の低下が認められているとのことでしたが、現在の状況について伺います。

答 保健福祉部長 直近の平成30年9月末では、介護保険認定者2781人のうち、58%の1624人で認知機能の低下が認められており、微増ではありますが増加傾向です。

問 見守りネットワークについて、現在の取り組みを伺います。

答 保健福祉部長 セブン・イレブンや郵便局などの民間事業者25社と契約を行い、業務中に、地域で暮らす高齢者の見守りを行っています。なお、民間事業者からの通報は、今年度はなく、平成29年度は2件でした。

問 認知症高齢者等見守りシール

について、このシールに表示してあるQRコードを携帯電話等で読み込むと、認知症の方への対応の仕方や警察署等の連絡先が表示されます。プライバシー保護の観点から、QRコードを読み込んで、登録者個人の住所、氏名等は表示されません。申請時の情報は、個人情報取り扱い同意に基づき、警察署と共有され、保護された方のスムーズな身元確認につながります。この見守りシールを導入してはどうですか。

答 市長 見守りシールは非常に大事であり、ぜひ検討します。

問 若年性認知症の取り組みについて伺います。

答 保健福祉部長 地域包括支援センターが総合的な認知症対策の中で相談を受け対応しています。

問 若年性認知症コーディネーターの活動を支援する体制や、当事者同士が語り合うミーティングの普及等を、必要に応じて行うべきと考えますがどうですか。

答 保健福祉部長 若年性認知症コーディネーターは、若年性認知症の方のニーズに合った関係機関や、サービス担当者との調整役として、4月に県が設置しています。市は、若年性認知症の方や高齢の方などが、安心して気軽に集まれる場所として、認知症カフェなどの居場所づくりに努めます。

健康増進について

問 健康マイレージは、市民が健康づくりに楽しみながら挑戦できる制度で、例えば健診の受診や献血、健康目標への取り組みなどを、ポイント化するものです。今後の第3次健康計画等に、この制度を導入してはどうですか。

答 保健福祉部長 第3次健康増進計画策定に当たり、18歳以上の市民1500人を対象に、健康づくりに関する調査を行いました。過去1年間に健診を受診しなかった人は24・5%、がん検診を1つも受けていない人は44・6%、運動習慣のない人は61・6%という結果です。このような方が多く、無理をせず、少しでも健康づくりに取り組めるよう、第3次健康増進計画期間中に、関係各課、関係団体と連携し、健康マイレージを実施していきたいと考えています。



健康づくり教室の様子